

校長先生の初恋物語

第10話 よしこさんの愛のことば



よしこさんと、とっくんの楽しい毎日
は続きました。足長君は、とっくんのこ
とをにらみつづけていました。もう一人、
ダンプさんも、とっくんとよしこさんの
関係にしっとしているように見えました。
ダンプさんのことも大好きです。でも、
よしこさんのことも大好きです。2人
を同時に好きになってしまったとっく
んは、ちょっと困ってしまいました。そ
れでも、今は、今だけは、せっかくよし
こさんと席がとなりどうしになったのだから、よしこさん
ととにかく仲良くしたいと思っていました。

そんなある日のことです。よしこさんが、ないしょ話を
してきました。

「とっくんに話したいことがあるんだけ
ど。」

おっと、いよいよ告白こくはくしてやつかー。

とっくんは、ないしょ話でよしこさん
から指定された、図書室に行きました。よし
こさんが、先にまっています。よし
こさんの告白をきたいしていましたが、
ざんねんながらちがっていました。
でも、とってもうれしい話でした。

「今度の日曜日なんだけど、よしこの誕生日たんじうびなんだ。わた
し家で、お誕生日会をやるんだけど、とっくんもきてほ
しいな♡」

ついに、ついに、ついに、お誕生日会に招待しょうたいされるくらい
のしんみつな仲なかになりました。あまりのうれしさに、とっ



くんは空を飛んでしまいそうでした。

よしこさんはその後、お誕生日会に
来る人をとっくんに教えてくれました。そ
のほとんどが、ふだんよしこさんと仲が
いい女の子達でした。その中には、ダン
プさんの名前もありました。「ダンプさ
んだいじょうぶかなあ。ぼくとよしこ
さんのこと、どう思っているかなあ。」と、
ちょっとだけ不安になりました。でも、
よしこさんは、ダンプさんとも超すげえなかよ
しなのです。よしこさんとダンプさん
がなかよしだということは、とっくんに
とってもうれしいことです。それに、ダン
プさんといっしょにお食事ができること
もうれしかったです。

しかし、よしこさんは、最後に気にな
ることを言いました。

「でもね、男の子がとっくんだけじゃ、
とっくんもさみしいだろうから、もう一
人男の子に来てもらおうだよ。」

「そうなんだ・・・。」

心の中では、ぼく一人でもいいのになって思っていました。
さらに、

「実は、その男の子に、この図書室に来てってお願いもし
てあるんだ。もうすぐ来ると思うよ。」

嫌な予感がしました。よしこさんがよびそうな、もう一
人の男の子。まさか、あの人だったりして・・・。

「がらがらっ。」

図書室のドアが開いて、あとからやってきた男の子とは、
やっぱりおそれていた、あの人でした。

つづく
あとからやってきた最悪さいあくの男の子とはだれか。その男の子
のせいで、とっくんはこのあと、よしこさんのお誕生日会
でくやしい思いをするのです。

次回予告 もう一人の男の子

